

今回初めて海外研修に参加して、スウェーデンマルメ研修で非常に良かったと感じた。

なぜこの研修に参加しようと思ったかという、就職する時からいつかスウェーデンで研修があったら絶対に行こうと思っていたのもあるが、何よりもマルメ研修という価値が自分の中で変わったからだ。

1年目に就職した時には高いな、いつか行きたいなと思っていたが、4年目になり、この話を聞いた時に本場の歯科医療をこれでいけるならいくしかないと思うようになった。

それは、患者さんが考える歯科医療の価値というのと非常に似ていると思う。価値を理解しなければ歯医者に行くとお金がかかるという考え方になってしまう。

研修の内容は、カリオロジーやペリオのことについて深く学ぶことができた。また私にとってスウェーデンでの歯科衛生士の学生の教育なども日本と違って非常に興味深かった。

日本では実習というといろんな医院を回り主にアシスタントの方法を学ぶ。しかし、スウェーデンでは2年で歯科衛生士として実習をしていた。私たちは実習の時にDrと一緒に一人の患者を見るというのは全くなかった。チーム医療のはずなのに日本ではそれを学生の時に学ぶことができない、またアシスタントをいかにうまくつくかという、歯科衛生士というよりはアシスタントを極めていくことにすごく違和感を感じた。

またスウェーデンで学校に入るにしても本当に歯科衛生士として働きたいのかというのを学校側がしっかり見極めて入学させるというのも歯科衛生士という仕事がしっかり国民に認識されているからだと思った。日本で歯科衛生士というと「あ、歯医者看護師さんね」と言われてしまうことが度々ある。

そのせいか日本ではなんとなく学校に入りなんとなくアシスタントになっていってしまうことが多いと感じる。

今後、実習や就職で受け入れる歯科医院がしっかり歯科衛生士の価値を学生にも伝えられるくらい成長して学校の教育自体も変えていくことも日本の課題だと感じた。

また私は、就職してすぐは、メンテナンスのやり方や治療はなぜこの方法でやるのか、なぜ今治療するのかというのをいつも人に聞いて疑問を解決するというのが多かった。

しかし自分の担当患者が増え、患者を見る機会が増えるとこれでいいのだろうか、という疑問がどんどん出てきてそのたびに調べては、改善すべきところというのがたくさん見えてきていた。そして今、メンテナンスを自費化するためによりエビデンスに基づいた方法に移行するため調べたり、話し合いをする中で患者に価値を伝えるためには伝える側がその価値を理解することがまず一番最初にしなければいけないことだと感じた。美容室で2万円払って正直メンテナンス1万円でも安いと思う。今までのメンテナンスは価値を伝えきれていないまま保

険でしてきて、自分で自分のメンテナンスにこのぐらいの価値しかないといってきたようなものでとても悔しい。

それは今回の研修で一番心に響いたのが宮本先生が言っていた、自分の提供している歯科医療の価値というのは自分で決めることの幸せだ。自分たちで決められることは自分を信頼してきてくれる患者や働いているスタッフにとってとても幸せなことだと感じた。

スウェーデンだからできて、日本ではできない。

そんなことはないと思う。いつまでも日本の保険制度に振り回されては本当の価値を患者さんに伝えられない。そして”よりいい歯科医療”をという発想は無くなってしまいうだろう。

すでにその保険というところから脱却し、自分のメンテナンスの価値を伝えられている人がいて、自費のメンテナンスの光が差しているのだから足踏みをしている場合ではなく、どんどん自らそれに向かって進んでいきたいと感じた。

今回のマルメの研修ではマルメの先生だけではなく、そこで出会った日本の歯科衛生士の方や歯科医師の方、各国から駆けつけてくれた先生方がいたからこそ充実したものとなったと思う。この研修にこのタイミングで参加できたことにとても感謝しています。ありがとうございました。